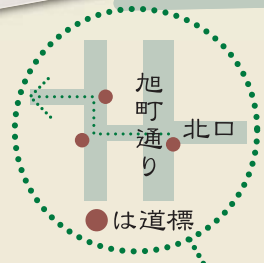
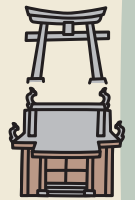


いまばり探求  
**桜井**  
さくらい



国分山  
城下町の名残  
(短冊状地割)



①古天神  
(道真伝説)



梅林

④小谷屋  
漆器店

月原漆器店

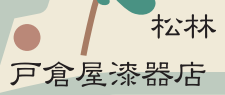
銀行



今治街道

旭町通り

北口



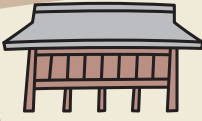
松林  
戸倉屋漆器店

⑤肥前  
灯ろう



②新天神  
(道真伝説)

月賦販売  
発祥碑



絵馬堂

保育園



西口

⑥石造  
灯明台

コンビニ



東口

グラウンド

WC

③志島ヶ原

松林

南口

WC

梅林

道真が  
お礼に贈った  
神像を祀る



素波神社  
(道真伝説)

※観梅会の  
時季のみ

梅林

海防に備えて、松山藩が  
安政2(1855)年に築造



お台場(土塁)

文化15(1818)年に  
紀州黒江の椀折敷間屋が  
寄進したもの

黒江  
灯ろう



衣干岩  
(道真伝説)

道真が濡れた衣を  
乾かしたという

桜井河口港

漆器倉庫跡

内港波止  
(古い石積み)



椀船が寄港した内港と漆器倉庫  
(昭和13年/近藤福太郎撮影)

江戸時代後期頃から、桜井商人は紀州黒江の漆器を大量に仕入れ、西国方面へ廻船行商を行うことで躍進。やがて桜井でも漆器製造を始めるものが現れ(天保年間頃)、明治後期～大正期頃に最盛期を迎えます。その頃に、桜井商人が中心となって、漆器・呉服・家具などを取り扱う月賦販売を始め全国に広めています。

江戸時代に桜井地域を支配したのは今治藩(古国分・国分)と松山藩(桜井・長沢・孫兵衛作・旦・登畑・宮ヶ崎)で、藩主はともに久松松平家で菅原道真を先祖とします。松山領は明和2(1765)年に天領となり(後、松山藩預り地)、当地域の年貢米は桜井港から別子銅山に回漕されています。